

ゴージャスお宝鑑定家〜「う〜ん、

ゴージャス！」<sup>6</sup>

---

オープニング（15分）

場所：剛田質店の店内

白金：「剛田さん、そろそろ掃除やめましようよ。昨日も棚全部拭いて、さらに天井まで磨いてたじゃないですか。」

剛田：「白金くん、天井を磨かずしてゴージャスの何たるかを語れると思うか？」

白金：「いや、普通の人は天井に注目しないんですって！」

剛田：「それだから普通のままなのだ。ゴージャスたるもの、360度、どこを見られても完璧であれ！」

白金：「いや、誰も見てないって！……っていうか、お客さん来るんですか？」

剛田…「来るとも。ゴージャスな魂を持つ者が  
必ずな。」

白金…「でも、先週なんて来たのボールペン持  
ち込んだおじいさんですよ？ゴージャスとかけ  
離れてましたけど。」

剛田…「ボールペン一つでも、ゴージャスに昇華  
させるのが私の腕だ。」

白金…「いや、あのおじいさん、5円玉と交換  
して帰りましたけど……」

扉が開く音。スーツ姿の紳士が登場。

紳士…「失礼。この店で鑑定をお願いした  
い。」

白金…「あ、本当に来た……。」

剛田（優雅にお辞儀）…「ようこそ、ゴージャ  
スの殿堂へ！」

白金（小声）…「殿堂って言い切るんだ  
……。」

紳士…「うむ、さすが評判の店だ。さっそく品  
を見ていただきたい。」

剛田：「どうぞ、こちらへ！」（手を大きく広げて机を示す）

白金：「やりすぎだって……。」

---

### ダイヤモンドかるた登場（30分）

紳士がアタッシュケースを開ける。光り輝く「ダイヤモンド製のかるた」が現れる。

剛田（息を呑む）：「こ、これは……！」

白金：「うわ、すご……え、これ何ですか？」

紳士：「これは、すべてダイヤモンドで作られたかるたでございます。」

白金：「かるたはダイヤで……」

剛田：「うーん、ゴージャス！」

剛田、ケースに顔を近づける。

剛田：「この輝き、そして手彫りの技術……これはただのかるたではない。まさに芸術品！」

白金：「いやいや、これ、遊ぶためのものじゃない」

「いですよね？」

紳士：「一度も遊んだことはありません。ただ観賞用として……。」

白金：「ですよね！ダイヤで遊んだら手切れますよ……」

剛田：「いや、遊ぶか否かではない。その存在そのものがゴージャスなのだ！」

白金：「また出たよ、そのゴージャス理論！」

剛田、札を一枚持ち上げる。

剛田：「『い』だな。この札一枚に込められたエネルギーを感じるか？これはただの『い』ではない……『いつでも輝け』というメッセージが込められている……」

白金：「いや、どこにも書いてないでしょ……」

紳士：「確かに書いてはいませんが……。」

白金：「ほら、冷静なお客さんも言ってます

よ……」

剛田：「冷静など不要！ゴージャスは心で感じるものだ！」

## 実際に使ってみる(25分)

剛田の提案で実際に遊ぶことに。

白金：「え、本気で遊ぶんですか？ダイヤですよ？」

剛田：「もちろんだ。真価を知るには、実際に触れ合おうべし！」

紳士：「ぜひ私も参加させていただきたい。」

白金：「いやいや、お客さんまで何言ってるんですか！」

試合開始。剛田が詠み手、白金と紳士が取り手となる。

剛田：「『た』！『高貴なる輝き、ゴージャスの極み！』」

白金：「何その句！適當すぎませんか？」

紳士（取ろうとするが、手が滑って落とす）：

「あっ……………」

白金：「ほら、落ちたじゃないですか！」

剛田：「いや、この音も美しい……うくん、ゴージャス！」

白金：「いや、どこがだよ！」

---

### 金額発表と締め(20分)

剛田が鑑定額を出すシーンでは、冗長なやりとりを増やして引き延ばす。

剛田：「査定額は……3500万円だ！」

白金：「ちょっと待って、高すぎでしょ！」

紳士：「ふむ、それは妥当ですな。」

白金：「いや、どこが妥当？」

剛田、満足げに締めの一言。

剛田：「ゴージャスは値段では測れない。この店にあるだけで輝きが増す……！」

## 1. オープニング（15分）

- ・ポイント… 剛田と白金の性格がわかるコミカルな掛け合い。剛田の「ゴージャス理論」と白金のツッコミでテンポを作る。紳士の登場でストーリーが動き出す。
- ・目標… キャラクターと店の雰囲気を観客に印象付ける。

## 具体的な展開…

1. 剛田が無駄に丁寧すぎる掃除に没頭している描写。

○ 白金：「剛田さん、掃除するのはいいですけど、昨日の夜中まで天井まで磨いてたの見たよ。」

○ 剛田：「ゴージャスとは完璧たるもの！天井が曇っているのは星空に負けるだろう？」

2. 白金が「そもそもお客さん来ない」と指摘。剛田の無敵のゴージャス理論で返される。

○ 剛田：「来なくともよい。」に輝きがあることが重要なのだ！」

3. 紳士の登場で場が切り替わる。剛田が過剰に歓迎し、白金が驚く。

---

## 2. ダイヤモンドかるた登場(25分)

・ポイント：登場する品物のインパクトと、それに対する剛田と白金の反応の対比。剛田は「ゴージャス！」と感動し、白金はひたすら現実的なツッコミを入れる。紳士が真面目に品物の説明をするが、それすらコメディに昇華される。

・目標：商品の価値とバカバカしさの両方を引き出す。

## 具体的な展開…

① アタッシユケースから「ダイヤモンドか  
た」が登場。剛田が過剰に反応する。

○ 剛田：「これほどの光を放つか  
るが存在するとは……！うん、  
ゴージャス！」

○ 白金：「いやいやいや、かるたです  
よ。これで正月遊ぶんですか？」

② 紳士がダイヤモンドかるたの由来を語  
る。

○ 紳士：「江戸時代の職人が制作  
を夢見ていたものを現代技術で  
再現しました。」

○ 白金：「いや、そんな夢いら  
ないで  
しょー！」

③ 剛田がかるた一枚を手に取り、いかにゴ  
ージャスカを語りだす。白金は終始ツツ  
コミ役。

### ③ 実際に使ってみる(30分)

- ・ポイント… 実際にかかるたを使って遊ぶこととで、キャラの個性をさらに際立たせる。ドタバタ劇や予想外の出来事でありを誘う。剛田は終始大真面目だが、それが逆に笑いを生む。
- ・目標… 中盤の盛り上がりとキャラクタータ  
ー間の絆(?)を描く。

### 具体的な展開…

① 剛田の提案で「ダイヤモンドかるた大会」を開催。

○ 白金：「やめましょうよ！滑って割ったらどうするんですか！」

○ 剛田：「割れたらそれもまたゴー  
ジャス！」

② 詠み手を剛田、取り手を白金と紳士で  
ゲーム開始。

○ 剛田：「『た』！『高貴なる輝き、  
ゴージャスの極み！』」

○ 白金：「何その句、どこにも書いて  
ないでしょー！」

○ 紳士（札を取るが滑らせる）：  
「あっ…！」

○ 白金：「ほら、傷ついたらどうする  
んですか！」

ω 次第に熱中する剛田が予想外の行動  
に出る。

○ 剛田が自ら札を取ろうとして机  
に倒れ込む。

○ 白金：「剛田さんまで…って、店  
主がそんな乱暴でいいんです  
か！」

---

#### 4. 金額発表と締め（20分）

- ・ **ポイント**… 剛田の査定理論のぶっ飛び具合を強調し、白金が現実的な視点で場を引き締める。紳士の意外なリアクションでさらに笑いを加える。
- ・ **目標**… クライマックスとして、商品価値とコメディーの絶妙なバランスを作る。

### 具体的な展開

① 剛田が金額をじっくり算出。独自の理論を披露する。

○ **剛田**…「ダイヤモンドの価値だけではない。この札一枚一枚の物語、それが無限の価値を生む！」

○ **白金**…「いや、どんな物語ですか！」  
「ただの札じゃないですか！」

② 紳士が査定額を受け入れ、最後に冗談を言う。

○ **紳士**…「いやはや、このかるたがこんな値段になるとは。これで新年

の遊びも一層豪華になります

な。」

○ 白金：「え、本当に遊ぶんです

か？」

③ 剛田が最後にまとめの一言で締める。

○ 剛田：「うーん、ゴージャス！」

○ 白金（呆れ顔で）：「もう、なんなんですかこの店……。」

---

## 全体の尺割まとめ

① オープニング（15分）：剛田と白金の性格を見せつつ、紳士が来店するまでのテンポの良い会話劇。

② かるた登場（25分）：商品の衝撃的な登場と、剛田の過剰な解釈によるコメディーパーツ。

- ③ 実際に使ってみる(30分)：ダイヤモンド  
ドかるたで遊ぶシーンを中心に、ドタバ  
タ劇を展開して笑いのピークを作る。
- ④ 金額発表と締め(20分)：剛田の「ゴー  
ジャス査定」と白金のツツコミを織り交ぜ  
つつ、物語を優雅にまとめる。